

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395200039		
法人名	株式会社 イービーエーサービス		
事業所名	グループホーム とよやまの憩		
所在地	西春日井郡豊山町大字豊場字流川22番地		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395200039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2395200039-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、有料老人ホームに併設して開設されているため、日常的に夜勤者が複数配置されており、非常時にも柔軟に対応できる体制が整えられている。複合型の事業所の利点を活かし、有料老人ホームで行事が行われる際には、グループホームからも利用者が参加しており、利用者が外に出る機会にもつながっている。さらに、身体状態が重度化し、グループホームでの生活が困難になってきた際には、家族と話し合いを行いながら、有料老人ホームへの受け入れも可能であり、利用者にとっては、大きな環境の変化がなく、生活を移行させることが可能である。また、当ホームは、豊山町内で唯一のグループホームでもあるため、運営推進会議には複数の地域の関係者の出席が得られており、意見交換等を深めながら、住み慣れた地域で生活することができるような支援に取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎回理念を唱和し、介護者による介護ではなく、利用者様主体の介護に徹している。	法人理念の他にも、ホーム独自の理念をつくっており、認知症の方に合わせた支援を意識するように努めている。法人の理念とホームの理念を掲示しており、日常的に振り返るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、商工会、学校等、祭り、運動会に参加し、地域の住民との交流を積極的に取り組んでいる。	ホームでは、中学校や保育園等との交流に取り組んでおり、併設事業所の利点を活かし、ボランティアの受け入れにも取り組んでいる。また、以前は施設長が認知症の方に関する講習会の講師を務めたこともある。	以前行っていた地域の方へ向けた講習会の開催が中断している。現状、地域で唯一の認知症介護のグループホームでもあるため、今後の取り組みにいたいしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の人の理解を得るために近隣の商店、飲食店へ外出している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員7名による情報交換、状況報告、意見交換、年6回実施している。	会議には、地域の商工会の方も出席しており、ホームの現状を知ってもらう機会となっている他、地域の行事等に関する情報を得る機会にもなっている。また、町の職員も出席しており、情報交換の機会にもなっている。	会議に家族の参加が限られているため、会議の内容を家族に伝えながら、ホームへの理解を深めてもらえるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者からの連絡を密に取りケアサービスの取り組みについて行っている。	施設長、管理者は、町の職員とは、運営推進会議の機会を通じた情報交換の他、不明点等の随時の助言等を得るように努めている。また、町で開催されている行事の際には、利用者と参加するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の尊厳を守り、身体拘束廃止に向けて、取り組んでいる。また身体拘束をしない方向性を持っている。	身体拘束を行わない方針のもと、ホーム内は開放的な雰囲気をつくりながら、職員による見守りに取り組んでいる。また、併設事業所との合同で虐待防止委員会をつくり、日常的な意識向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症ケアに対する研修に参加し、虐待防止の周知徹底を図り、早期発見に努めている。虐待防止委員会を設置して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員養成研修で、制度の理解を深め活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等に十分な説明を行い、理解が得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望が出しやすい様、御意見箱等を設置している。	ホームでは、年2回、家族運営懇談会を行っており、施設長により、家族との交流が行われており、玄関には意見箱を設置されている。また、毎月発行しているホーム便りの発行の際には、担当職員による個別の報告も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1～2回全体会議を開催し、職員の意見を十分に聴き、反映している。	ホームでは、毎月のフロア会議が行われており、現場からの意見や要望等については、併設事業所との全体会議にもつなげている。また、日常の申し送りの時間を利用した、職員間の話し合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、処置への反映や向上心を持って働けるよう、対応している。また休憩時間の確保ができるよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度に基づき、職員に外部の介護福祉士の講習会に参加させて、意識の高揚をはかり積極的に介護福祉士を目指すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員にGH協会等の研修に参加させる。又、近隣の同業他社を積極的に見学勉強させ、スキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	オリエンテーションのマニュアル作成、個々の状態に合わせて、本人の気持ちを受け止め、安心を確保できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所アセスメントで家族の要望を十分に傾聴しながら、ケアプランに反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人家族等の実情、要望をもとに、何を要求して、どうしたいのかを見極め、支援に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事を食べたり、種まきをしたりして、花の開花を楽しみとして会話づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との距離が保てるように、お便りを発送したり、身体状況の報告等の実施に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への買い物は、要望に応じて、途切れないよう支援している。	利用者が近隣からの入居でもあるため、友人や知人がホームを訪問したり、以前出かけていたスーパー等への外出にもつなげている。また、家族との外出もつくるように努め、一緒に、食事や買い物の機会もつくりられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に職員が入り、より良い関係がもてるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援を行っていきま す。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由の確保、利用者がその人らしく生きられるよう、支援している。	職員は担当制で利用者の把握に取り組んでおり、毎月の個別の便りの作成等を通じて、利用者の思い等の把握と職員間の情報の共有につなげている。また、毎月、カンファレンスの時間をつくり、話し合いにも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が安心して暮らせるように、また有する力を発揮しながら、自分らしく暮らせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の部分的な問題や断片的な情報の把握に陥らず、一人ひとりの暮らしの流れにそって本人の状況を統合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側にとっての課題ではなく、本人がより良く暮らすための問題やケアのありか方について作成している。	計画内容の見直しは、基本、短期6か月、長期1年で行っている。職員は、介護計画の中に記載している記号を、個人記録にも記載しながら、計画内容に沿った記録の作成を行っており、変化を把握と毎月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践を漫然と記録するのではなく、本人を身近で支える職員の知りえたケアの実績、気づきを具体的に記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単一の介護サービスだけにとどまらず、利用者のニーズに対して柔軟な支援を臨機応変に展開していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がより安全でより豊かな暮らしが楽しめるよう、地域包括支援センターの協働、民生委員、ボランティア等の多様な地域資源を活用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医師による医療を受けられるよう支援している。	協力医とは、月2回の訪問の他にも、時間外の連絡も可能となっており、柔軟な支援が行われ、受診についても、ホームによる支援が行われている。また、併設の有料ホームに看護師が配置されているため、日常的な支援も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から介護職と看護職の関係を密に行い、一人ひとりの健康管理や医師の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、本人、家族と情報交換や相談に努めスムーズな退院が出来るよう、積極的に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、段階ごとに家族等が、かかりつけ医等、ケア関係者と意向を確認しながら、対応方針の共有を図っています。	ホームは、併設の有料ホームや訪問看護とも連携しながら、重度の方への支援についても柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。重度の方については、家族との段階に応じた話し合いを行い、併設の有料ホームへの受け入れ等にも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身体状況の急変や、事故発生にも慌てずマニュアルに沿って行動ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練の計画を立てており、消防署立ち会いのもと、利用者様も参加しての避難訓練を実施している。	年2回実施している避難訓練は、併設の有料ホームとの合同で行われており、3名の夜勤者が相互に連携できるように取り組んでいる。また、備蓄品については、併設の有料ホームに確保されている。	現状、事業所内での訓練の実施となっているが、今後に向けて、周辺地域の方との相互の協力関係が深まるような取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底し、利用者様の尊厳と権利を守るようにしている。	職員による利用者への対応については、運営法人をあげて取り組んでいる。法人で作成した「接遇5原則」をホーム内にも掲げており、職員が毎日チェックするように指導が行われている。また、日常的な注意喚起も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言葉では十分に意思表示ができない場合であっても、表情や全身での反応を注意深くキャッチして、本人の希望を把握し、自己決定できるようにします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが本来持っているペースや、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ髪形、服装等の身だしなみや、おしゃれを個別に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるよう支援している。利用者の希望に添って選択食日をつくり食事を楽しんでいる。	食事の提供については、併設の有料ホームの厨房から行われているが、ご飯と汁物については、ホーム内で調理されている。また、利用者の状態に合わせた、ミキサー食や刻み食等の取り組みや外食の機会もつくられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないように、職員全員が知識や意見を持ち、一日全体を通し必要な栄養、水分がとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活かしながら、食後のうがいや口の中の手入れの支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄やオムツをしないですむ暮らし、可能な限り、トイレで用を足す支援や気持ちよく排泄することができる支援をしている。	職員は、利用者の排泄チェックを行いながら情報の共有に努めており、会議等の機会に話し合いも行い、トイレで排泄できるように取り組んでいる。また、トイレを男性用と女性用で分けることで、快適に排泄できる雰囲気づくりに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、身体機能を衰えさせたり排泄の習慣を崩すことなく、しぜん排泄ができるように対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けは毎日行っており、利用者様の希望に合わせて入る順番等も決めている。	入浴は週2回の方が多いが、希望に合わせた入浴日の変更等も可能である。浴槽は個室であるが、併設の有料ホームに機械浴を設置していることもあり、重度の方にも対応できる。また、柚子湯や菖蒲湯等の季節の楽しみも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境や生活の過ごし方、関わる側のあり方を確認して、安心して、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、飲み忘れや、誤薬を防ぐための支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしに楽しみが持てるように潜在している記憶やできる力を最大限活かして、自分らしく暮らせるよう、周囲の配慮をしながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な外出ができるよう個別の支援を、工夫している。	日常的には、天候をみながら散歩したり、喫茶外出等の取り組みが行われている他、併設の有料ホームの行事には、ホームからも外に出て参加するようにしている。また、季節に合わせた花見や紅葉に出かけたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が日常の暮らしの中で、その人希望が力に応じて、外部との交流がもてるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりが手紙や電話の習慣、希望、有する力に応じて、外部との交流がもてるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活空間は、利用者様が居心地よく過ごせるように、又、自分の力でその人らしく過ごせる場となるよう支援している。	ホーム内はゆったりとした空間を確保しており、リビングの窓が大きく、採光にも優れているため、開放的な雰囲気となっている。また、ホームの敷地には花壇があり、利用者が花を育てる場所もつくられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人の気配が感じられる空間の中で、2~3人で過ごせるような、家具配置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせるよう、環境作りの工夫をしている。	居室についてもゆったりとした空間を確保しており、天井が高く、天窓を設置していることで、採光にも優れている。また、居室内には、テレビや鏡台や趣味の物等、利用者、家族の希望にも合わせた配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢や認知症がある利用者にとって、普通に暮らせる、安全な環境、不安や混乱、失敗を招くことのない環境の工夫をしている。		